

法学徒にとっての図書館の存在意義

法科大学院教授

大 石 和 彦



東キャンパスの法学屋がデータ収集拠点として見た場合の本学（特に東キャンパス）図書館に対する総評としては、まず内外の法学関係の雑誌はほぼ網羅的であり、殆ど不便を感じさせない。どこの図書館でも所蔵の無いものも当然あるが、そういった場合には他大学図書館や国会図書館との間のインターライブラリー・ローン・サービスを通じ、数日で現物やコピーを閲覧できるので、やはり致命的な不都合は感じない。また私が良く使うアメリカの文献も、図書館のホームページから入るデータベースで、これもほぼ網羅的にプリントアウトできる。つまり岩舟の自宅から小山の大学に行けば、（少なくとも日米のマテリアルで商売している）私の教育研究に必要な法的情報は、ほぼ全て入手できる。こうした至便極まりない現状は一朝一夕で到達したものではなく、インターネットの普及といった本学にとっての外在的要因とともに、法学系学部、大学院の拡充と平行して行われた大学当局、図書館事務局、そして法学部の歴代図書委員の先生方の汗と努力の賜物であり、現在の法科大学院図書委員として、さらに拡充を図っていかなくてはならないと考えている。

本学東キャンパス図書館のいいところは、そこにいけば本学が所蔵する法学系の情報が一箇所に集中して全部あることだ。本館と東に分けたとき、経営や教育の人は普通読まないだろう

コテコテの法学系文献が本館にあったりしたことがあるが、これもその都度指摘して移設してもらったので、殆ど改善したと思う。このありがたさは、他の老舗大規模大学の状況を知らない人にはわかりにくいかもしれない。対極の典型例が東大で、各学部などの部局に属しない総合図書館があると並行して、法学研究科・法学部専属の蔵書に関する部局が3つ（法学系単行書所轄部門、継続資料所轄部門、外国判例・法令所轄部門）あり、それぞれが独立していて、場所（フロア）も入り口も違うので、あそこに資料収集に行くと、あっちに行ったりこっちに行ったり、まるで迷宮の探検である。私の非常勤先の、やはり老舗のある大学でも、総合図書館にプラスして法科大学院棟に法学系図書室を作ったが、結果、法学系資料が、必ずしも合理的でない分け方で、二箇所に分かれてしまい不便であると、その大学の教員から聞いた。本学の場合、東キャンパス分館設置による2館への蔵書割当ては、専門分野に応じた形でうまくやった例であろう。それでも外国語や一般教養の先生方には、上掲老舗大学と同種のストレスをかけている懸念無きにしもあらずで、今後の検討課題であろう。

東キャンパスに学ぶ学生（法学部生・法学研究科院生・法科大学院生）にとっての図書館の存在意義とは何であろうか。居場所の提供、というのも、図書館の重要な機能である。6階

に自席を持っている法科大学院生が気詰まりになってたまに図書館に避難する気持ちもわかる。私も院生・助手時代、特に夏は当時の東北大の研究室はクーラーなどなかったので、やはり図書館で教員や院生しか入れないエリアで勉強するつもりで出かけて、昼寝をして帰ってきたものである。

もうちょっと真面目な話をすると、法学でも政治学でも、人間社会に関する学問は、唯一の正解など最初から無く、むしろ、色々な、時に対立する諸見解のどれもみんな部分的には正解くらいに思った方がよい。というのは、人間にとって、人間社会に関する問題は、唯一の正解を得られるほど単純・簡単なものではないからだ。とすれば、せいぜい我々にできることといえば、例えば朝日だけでなく産経も読んでみる、「世界」や「論座」だけでなく「諸君！」や「正論」も読むこと、団藤説だけでなく平野説も読むことである。高校（大学受験）段階までの、「正解は唯一」というヘッド・ギアから自分自身の頭を解放して、多角的に、いろんな方向から物事を見てみようという頭になれないで社会科学系大学を卒業するのは焼ハマグリ

を食べないで桑名を素通りするようなものである。そのためにも、図書館は多様な見解を皆さんに日々提供しているはずである。

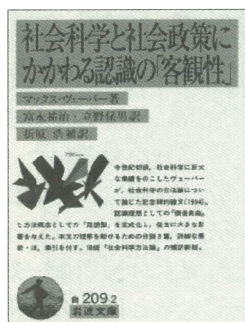
図書館には、新聞及び新着雑誌コーナーを見ればわかるように、最新の情報が常に入ってくる。と同時に、ときに百年以上前の新聞、雑誌、法令、判例、帝国議会議事録等も置いている。こんなのは来年の公務員試験や新司法試験に役立たないからジャマなだけだ（廃棄しろ）！と意気込むその君、冷静に考えて欲しい。理系の自然科学と社会系の学問との最大の違いは、後者においては実験ができないことである。そこでは実験データに当たるものは、歴史的記録として蓄積するしかない。今やっている裁判の結果を知るためには過去の判例が必要であり、過去の判例を理解するためには当時の古い法律の規定を知る必要がある。だからちゃんとした法学系図書館では古い六法は捨てないで保管している。そういう古臭いものを廃棄すべしというのは、図書館をせいぜい数年後の試験勉強のための自習場所としか見ない子供じみた近視眼的発想である。

先生おすすめの一冊

法学部教授 清水正義

■ 社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」

マックス・ヴェーバー著



『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』

マックス・ヴェーバー 著
富永祐治、立野保男 訳
折原浩 補訳 岩波書店
(請求記号：301.6/WE)

大学一年生のとき学問の客観性と研究者の主観性との矛盾について悩んでいた私は、わが国における古代ローマ史の権威弓削達先生（先生は当時五〇歳くらいのはずだが、もう押しも押されもせぬ学界の大権威だった）に教えを請うたところ、薦められたのがこの本だった。

岩波文庫の薄い本なので、内心「ああよかった」と読み始めたら、その内容の堅固さと新鮮さに驚いた。ウェーバーのいわゆる「価値自由」（ヴェルト・フライ）と理念型（イデアル・ティープス）を定式化した記念碑的論文だが、私の悩みに正面から応えてくれた。

読んでためになるだけでなく、ウェーバーの人となりが確かめられる好著だと思う。みなさんも「ああよかった」と読んでもらえたら嬉しい。岩波文庫の他、講談社学術文庫、河出書房新社の『世界の大思想 ウェーバー』などにも入っています。

データベースを活用しよう

インターネット検索で得られる情報は玉石混交、全てが正しい情報とは限りません。図書館で提供しているデータベースで、信頼できる情報を収集しましょう。集めた情報をレポートなどに引用するときは、出典を明記することが大切です。

データベースの入口 http://web.hakuoh.ac.jp/lib/guide/aru_jouhou13.html

?

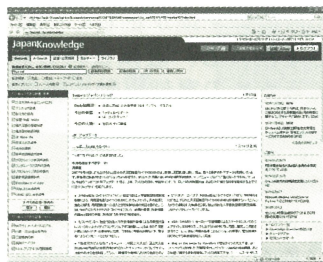
「涵養」の意味が知りたい。「原子力発電」について調べたい。
「Physical」の和訳を調べたい。「井深大」という人物について知りたい。

A

調べものは「JapanKnowledge」にお任せ！

- ◆日本大百科全書
- ◆現代用語の基礎知識
- ◆プログレッシブ和英中辞典
- ◆日本人名大辞典 ほか

百科事典や国語辞典、時事用語、英和・和英辞典などの辞事典類を一括検索できます。



?

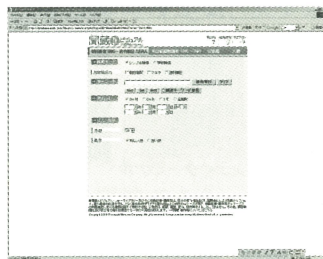
「郵政民営化」についての新聞記事を集めたい。

A

新聞記事検索データベースを使いましょう！

- ◆朝日新聞 「聞蔵Ⅱ」
- ◆日経新聞 「日経テレコン 21」
- ◆読売新聞 「ヨミダス文書館」 ほか

キーワードや発行日などから、新聞記事を検索できます。記事は一部を除き全文が見られます。



?

「日経パソコン」先月号の Excel 特集がもう一度読みたい。

A

「日経 BP 記事検索サービス」で読めます！

- ◆「日経パソコン」
- ◆「日経コンピュータ」
- ◆「日経ビジネス」
- ◆「日経ベンチャー」 ほか

日経 BP 社が発行する雑誌の記事全文が読めます。「パソコンスキルアップ講座」では、Word や Excel などのジャンル別に記事がまとめられていて便利です。



※いずれも学内のパソコンからのみアクセス可能です。

図書館の活動

今年も蔵書点検（2月18日～3月1日）のため図書館が休館しました。そこで今回は「蔵書点検って何？」という皆さんの疑問にお答えします。

こんな経験はありませんか？

OPACで検索すると保管中と表示されるのに、いつ行ってもその図書（雑誌）が書架にない。

蔵書点検はお求めの資料を正しく迅速に提供していくために必要な作業です。

蔵書点検では、大学の貴重な財産である蔵書が紛失していないか、実際に資料のある場所と目録の記述が正しく一致しているかを点検します。

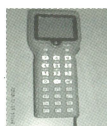
その他にも、破損資料の発見・補修や、請求記号の誤記訂正、増加する蔵書を上手く管理するための書架移動、雑誌の製本など日常では出来ない作業を行っています。

蔵書点検の手順は

- 1 ハンディターミナルという機械で1冊ずつ図書のバーコードを読み込んでいきます。この時、静まり返った館内には「ピッ」「ピッ」という音だけが響いています。今年は本館と分館の蔵書15万5千冊を対象に点検を行いました。



バーコード



ハンディターミナル



図書館休館中、皆さんには大変ご不便をおかけし、申し訳ありませんでした。しかし、年に一度の大切な作業です。ご理解とご協力をお願いします。

- 2 ハンディターミナルで読み込んだデータと図書館業務用コンピュータの所蔵データを照合し、紛失した図書がないか、誤って排架された図書がないかを確認します。

- 3 あるべき場所がない図書については、「一時所在不明リスト」が出力されます。館員はこのリストを持って図書を直接確認しに行きます。書架のうしろに落ちていたり、ほかの本にはさまっている場合もあります。書架の下をのぞいたり、ほこりにまみれながら不明図書を探索します。

- 4 結果報告
不明図書冊数：本館41冊、分館13冊
図書の検索をしたにも関わらず、2回連続で所在不明図書となったものは、除籍という作業を行い、所蔵データを削除します。除籍した資料のうちで必要なものは補充します。



新入
した。館
く。ゲ
なり
まが

ささやき

「グループで話し合いをしながら学習したい」という皆さんのために、本館には2部屋、分館には4部屋のグループ学習室があります。3人以上から利用可能です。マナーをまもって、大いに活用してください。

平成20年4月1日 発行
編集 図書館だより編集委員会
発行 白鷗大学総合図書館
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
(0285) 22-9737 (直通)
ホームページ <http://web.hakuoh.ac.jp/lib/index.html>
印刷 (株)尚文堂印刷所